

森林パトロール通信

平成30年度 第3号 平成30年6月14日発行



「遊々の森」始動！



中泊町立中里中学校と協定を結んでいる「遊々の森」での活動が今年度もスタートしました。「遊々の森」とは、学校などと森林管理署長などが協定を結ぶことにより、様々な体験活動や学習活動を行うフィールドとして国有林を継続的に利用できるようにする制度です。

今年度の最初の取組として、6月6日（水）に中里中学校1年生56名を対象とした森林教室及びヒバの空中取り木苗作製体験を実施しました。



森林教室の様子

職員による空中取り木苗作製の実演



当日は、初めに中里中学校の体育館にて、プレゼン用ソフトのパワーポイントを使用しながら「森林の役割」、「中泊町の町木であるヒバ」などについて学習し、空中取り木苗作製の実演を行いました。その後、空中取り木苗作製体験のため、今泉山国有林350林班へ移動しました。

空中取り木とは

●「取り木」とは
植物の人工的な繁殖方法の一つ。枝や茎の途中から根を出させて、それを苗として使用します。

●「空中取り木」とは
取り木部分を地中に埋めずに発根させる方法。

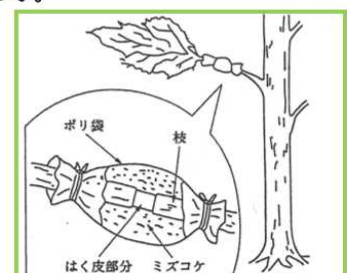
なぜヒバで空中取り木を作るのか？

→ヒバはもともと、人が補助をしなくても、雪などにつぶされて枝が地面に触れると発根して新しい芽が出やすい特徴があります。この特徴から、ヒバは取り木に適している樹木です。



空中取り木を作る利点は？

1. 種から苗を育てなくてもいいから、短期間（4～5ヶ月）で山に植えられる苗木ができます。
2. 作りたい大きさの苗がつけれます。
3. 苗を作る細がいろいろなから、作業がしやすく誰でも作れます。



【空中取り木のイメージ】

生徒は暑い中、それぞれの班に分かれてコーチの指導の下、カッターを用いたヒバの剥皮やミスゴケ巻きの作業を、それぞれが分担しながら真剣に取り組みました。



体験活動を終えた後の生徒からのアンケートでは、「カッターで木の皮を切り取るのが楽しかった」や「ふるさとの大切な森林を後世に残していくことがどれだけ大切なことわかりました」などの感想がありました。

今回作製した空中取り木苗が発根し、苗木として利用できるようになるのは、3～4ヶ月後です。9月下旬に、その取り木苗の植樹体験を実施する予定です。

うまく発根しているように、職員一同で願っています！！



事務局から



国民の森林・国有林

夏が近づき、気温や湿度が上がる日も増えてきました。
入林などの際には、熱中症対策や突発的な豪雨の備えを十分に行っていただきたいと思います。
紙面充実のための、投稿も募集しております！！

津軽森林管理署金木支署 担当：三橋
☎0173-53-3115 FAX0173-53-3197

